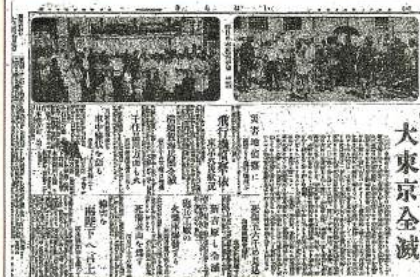


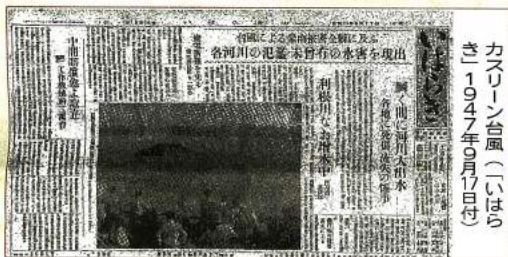
・神奈川中心に 家屋倒壊や火災で死者・行方不明者10万5000人余り)
石岡の大火 587戸焼失

1929 (昭和4) 年3月



関東大震災 (いばらき)
1923年9月1日

- 1930 (昭和5) 年6月 那珂川下流域で地震 水戸、石岡、土浦などで建物被害。マグニチュード (M) 6.5
- 1933 (昭和8) 年3月 昭和三陸地震 津波により三陸沿岸で死者・行方不明者3000人余り。M8.1
- 1935 (昭和10) 年9月 二つの台風 死者・行方不明者31人、全壊半壊・家屋流失167戸、床上浸水3947戸
- 1938 (昭和13) 年6月 梅雨前線と台風 死者・行方不明者49人、全壊半壊・家屋流失2551戸、床上浸水3万9524戸
- 8月 台風 死者・行方不明者12人、全壊半壊・家屋流失2126戸
- 9月 鹿島灘で地震 水戸で震度5、M6.5
- 11月 福島県東方沖で地震 福島中心に被害、M7.5
- 1941 (昭和16) 年7月 台風 死者・行方不明者6人、全壊半壊・家屋流失555戸、床上浸水2378戸、堤防決壊292カ所



- 1947 (昭和22) 年4月 那珂湊の大火 1210戸焼失
- 9月 カスリーン台風 死者・行方不明者74人、全壊半壊・家屋流出634戸、床上浸水1万1996戸、堤防決壊1111カ所



①

①水戸市の「いっせい防災訓練」で机の下に潜る児童たち = 2月、同市東大野の市立上大を組み立てる坂東市職員ら = 昨年10月、同市借宿の市立七重小③避難力強化訓練で避難者

日頃の備え 被害

各地で「複合災害」に対応する訓練も行われている。昨年は坂東市が県と合同で避難所開設などの訓練を実施。それぞれ、新型コロナウイルス対策の確保を徹底した。

坂東市の指定避難所の一つ市立七重小では、県との関係者が体育館に、3密対策として段ボール製の間仕切りを組み立てて設置。一般避難者と要配慮者のスペースを隔てたほか、おむつ交換スペースを含めた個室を段ボールで9部屋製作した。また一般避

訓練で、県防災・危機管理部の堀江英夫部長は「新型コロナウイルスなどの感染症が心配で避難所に行けないという人があつてはならない。きちんと健康チェックやパーティションで区切るなど、安心して避難してもらえようような避難所の運営が必要になってくる」と話した。

避難所の新型コロナウイルス対策では、県内の各自治体で間仕切りや消毒液、マスク、非接触型体温計などの備蓄が進む。職員の効率的な配置のためサーモグラフィカメラを購入した自治体もある。

昨年9月、県は、各市町村で参考にもう一つのための「避難所運営マニュアル基本モデル」を改定。新型コロナウイルス対策などを新たに追加した。また、市町村の担当者に参加する「災害対応勉強会」を実施。発災時の課題や好事例を共有し、県全体のレベルアップを図っている。

(次回は4月30日掲載)

私たちは「いばらき防災キャンペーン2021」に協賛しています

